

(仮称) 医科大学院大学準備委員会 (第2回) 議事次第

日時: 令和4年5月24日(火) 16:00 ~ 17:30  
場所: ホテルアソシア静岡 (4階 カトレア)

1 開会

2 第1回準備委員会の概要 ..... 【資料1】

3 審議事項

(1) (仮称) 医科大学院大学準備委員会の進め方 ..... 【資料2、3】

(2) (仮称) 医科大学院大学が目指す方向性 ..... 【資料4、5】

4 閉会

**資料**

議事次第

委員名簿

資料1

第1回準備委員会 主な意見

資料2

(仮称) 医科大学院大学基本構想 項目(案)

資料3

(仮称) 医科大学院大学準備委員会の進め方(案)

資料4

(仮称) 医科大学院大学が目指す方向性

資料5

(参考) 各医科大学院の理念・目標等

**参考資料**

参考資料1

第1回委員会議事録

参考資料2

静岡県の地域医療

関連図表(別冊)

参考資料3

(仮称) 医科大学院大学に期待する効果

参考資料4

当委員会の目的及び審議の進め方

参考資料5

大学院(医学分野)の設置基準等

参考資料6

(仮称) 医科大学院大学準備委員会設置要綱

(仮称) 医科大学院大学準備委員会 委員名簿

(敬称略、五十音順)

主 な 役 職 等	氏 名	出 欠	参加方法	
			会場	WEB
静岡県立病院機構 理事長	田中 一成 【委員長】	○	○	
慶応義塾大学 医学部 腎臓内分泌代謝内科 教授 静岡社会健康医学大学院大学 副理事長 (将来構想担当)	伊藤 裕	○	○	
京都大学大学院 医学研究科 教授	岩井 一宏	○	○	
静岡社会健康医学大学院大学 理事 (教育研究担当) 兼副学長	浦野 哲盟	○	○	
静岡県立大学 特別顧問	木苗 直秀	○	○	
一般社団法人静岡県医師会 副会長	小林 利彦	○		○
株式会社静岡銀行 代表取締役会長 一般社団法人静岡県経営者協会 会長	中西 勝則	×		
静岡社会健康医学大学院大学 理事長兼学長	宮地 良樹	○	○	
浜松医科大学 理事 (企画・評価担当) 兼副学長	渡邊 裕司	○	○	
公益社団法人静岡県看護協会 会長 一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会 会長	渡邊 昌子	○ 途中参加		○ 途中参加

出席委員 9 7 2  
全委員数 10

## 第 1 回準備委員会 主な意見

田中 委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療科別医師数が全国比 80%未満の科は様々な支障あり。<u>特に内科は 70% 台が多く、細分化されているため一つの大学で全分野のカバーは困難</u></li> <li>医学と医療は表裏一体で、医学がなければ医療も発展しない。<u>医学的な知識や研究の経験は、医師の実力を伸ばすのに必要</u></li> <li>人口減少の中で<u>医学部がなくなれば附属病院と大学院が残る可能性</u>。医科大学院はその先駆けになり得る。</li> <li>浜医、京大、慶応と連携して有意義な研究ができれば優秀な医師が集まる。</li> <li>県大薬学部や静大の理学部、農学部との連携ができれば、大学の発展だけでなく、静岡市に若い人を呼び込む力になる。</li> </ul>
伊藤 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>医科大学院ができれば質の高い医師が増える。</li> <li><u>最近の学生は専門医を取りたいが、学位の意味に疑問を持つ人が多い。</u></li> <li><u>若い人たちはヒューマンサイエンスなど、新しい医療につながる研究を求めている。学生のニーズに合致した研究領域を設定し、学位取得後も臨床しながら研究を続けることができれば静岡に残る可能性</u></li> <li>工学部と組み新しいデバイスを作るなど、医学以外の領域との連携も魅力</li> <li>大規模な新しい臨床研究が県内各地の病院でスムーズにできるシステムをつくることができれば更に魅力的</li> </ul>
岩井 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学には病院への医師派遣機能があるが、本県にはセンターがないのでは。</li> <li>医療だけでなく、研究もできるスタイルをつくるのが大事。</li> <li>内科系の医師不足分野は浜医と協力して補充できる構想が必要</li> <li><u>ヒューマンバイオロジーをやりながら病気をやれる時代になってきた。</u>病院があるところに大学院大学をつくるのであれば、<u>大学並みの人数のレベルの高い指導医を集めるのは難しいが、研究のサポート体制をつくり、臨床しながらヒトのサンプルで研究できるのは魅力</u></li> <li><u>医学部のコピーでなく、新しいタイプの大学院大学を目指すべき。</u></li> </ul>
浦野 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>奨学金被貸与者を指導する体制が不十分。指導医もできる人たちが集まれば教育面でも貢献が期待できる。</u></li> <li>社会健康医学大学院大学は、学生が社会人であることや、統計などをシステムティックに学ぶことで意欲的。高いレベルの研究ができ、サポートも充実させれば新しい大学院ができる。</li> </ul>
木苗 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>医師を目指す学生を増やすためには、小学生から医師や看護師と子供たちが接する機会が必要</u></li> </ul>

<p>小林 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学修学資金被貸与者の定着が課題。大学院も一つの手段だが、<u>基幹病院を東部、中部で増やして指導医を充実させることが重要</u></li> <li>・ 優秀な教育者、教育がしっかりされた医師を増やすことは大賛成</li> <li>・ 教官に県内の人材を集めると更に手薄になる。県外からの確保が課題</li> </ul>
<p>中西 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>産科や救急科の医師の少なさは、安心、安全と言えるのか疑問な数字</u></li> <li>・ (新たなデバイス等) 産業界も一緒にやっていたら。</li> </ul>
<p>宮地 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>弱点とされる領域で優秀な人を県総に集め、コアをつくり、教授として兼任する。それが魅力になる。</u></li> <li>・ 医師が「静岡県に定着したい」「専門医を取りたい」となる魅力を感じる大学院であることが必要。<u>他大学にない静岡県の特色など、どうすれば人が集められるかという着眼点が求められる。専門医と学位は両立できる。</u></li> <li>・ <u>静岡県で専門医が取れて、東部を中心に広がるようなスキームが必要</u></li> <li>・ <u>大学院に入る時の一番の問題は、臨床から離れ、アルバイト生活になって基礎実験をしなくてはならないこと。静岡県に定着して生活できるようにし、臨床しながら優秀な指導医から指導を受けることができれば研究を続けられる、それは魅力とを感じる人が増える。</u></li> </ul>
<p>渡邊裕 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>特に神経内科、アレルギー、リウマチ等の医師が少ないことは重要な問題</u></li> <li>・ 浜医の大学院は充足しており、定員を増やす議論もある。</li> </ul>
<p>渡邊昌 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>若い人は外に出ているような経験をしたい。県外に出ても戻ってくる、戻ってきてもいい仕組みづくりが重要</u></li> <li>・ 医学だけではなく、様々な要素が入った大学院を目指すべき。</li> <li>・ <u>医師の質を高めるための大学院をつくるという考え方</u></li> </ul>

## (仮称) 医科大学院大学基本構想 項目 (案)

(仮称) 医科大学院大学基本構想	
1	大学院大学の設置目的
2	大学院大学の概要
	(1) 基本理念
	(2) 基本方針
	(3) 想定する研究分野
	(4) 養成する人材像
	(5) 取得できる学位
	(6) 入学定員
	(7) 附属病院

## (仮称) 医科大学院大学準備委員会の進め方(案)

年度	回次	審議事項	基本構想の項目		
			目指す方向性 (基本理念・方針)	・想定する研究分野 ・附属病院	・養成する人材像 ・取得できる学位、入学 定員
R3	1 3/29	(仮称) 医科大学院大学について意見交換	—	—	—
R4	2 5/24	目指す方向性(基本理念・基本方針)について意見交換	意見交換	—	—
	3 8/31	・目指す方向性(基本理念・基本方針)〈暫定案〉について意見交換 ・想定する研究分野について意見交換 ・附属病院について意見交換	暫定案 意見交換	意見交換	—
	4 11/28	・想定する研究分野〈暫定案〉について意見交換 ・養成する人材像について意見交換 ・取得できる学位、入学定員について意見交換 ・附属病院について意見交換	—	暫定案 意見交換	意見交換
	5 1/23	基本構想(事務局骨子案)について審議	事務局骨子案審議		
	6 3/20	基本構想(事務局取りまとめ案)について審議	事務局取りまとめ案審議		
	7	基本構想(最終案)を審議、基本構想を決定	最終案審議、基本構想決定		
R5 以降	—	基本計画の検討・策定			

## (仮称) 医科大学院大学が目指す方向性

- ・ (仮称) 医科大学院大学の目指す方向性について、第1回準備委員会における委員発言や他大学院の事例を参考に、事務局が以下のとおり整理

設置目的 (基本理念)	項目 (基本方針)	
新しい医療を目指す学問や研究に取り組み、高度な研究能力と診断能力を有する人材を育成し、地域医療及び国際社会に貢献する最先端の研究拠点を形成する。	独創的な学問・研究への取組	ヒューマンサイエンスなど、新しい医療につながる独創的な学問・研究への取組
	優れた臨床研究医の育成	高度な研究能力と診断能力を兼ね備え、臨床の現場で活躍する医療人材（フィジシャン・サイエンティスト）の育成
	研究拠点の形成	既存の枠を越え、地域の特性を活かした最先端の研究拠点の形成
	地域医療への貢献	研究成果の還元、医療人材の育成、大学院の資源活用による地域医療への貢献
	国際社会への貢献	海外の研究機関と連携した世界水準の研究推進による国際社会への貢献

- ・ 項目別の主な意見等を以下に記載

## 1 独創的な学問・研究への取組

## ＜ヒューマンサイエンスなど、新しい医療につながる独創的な学問・研究への取組＞

- ・ 医学と医療は表裏一体で、医学がなければ医療も発展しない。
- ・ どうすれば人が集められるかという視点から、他の大学院にはない特色を打ち出すべき。
- ・ 若い人たちはヒューマンサイエンスなど、新しい医療につながる研究を求めている。
- ・ ヒューマンバイオロジーをやりながら病気をやれる時代になってきた。
- ・ 臨床しながらヒトのサンプルで研究ができるのは魅力になる。研究をサポートする体制の構築が必要
- ・ 浜松医科大学、京都大学、慶応大学と連携して有意義な研究ができれば、優秀な医師が集まる。
- ・ 工学部と組み新しいデバイスを作るなど、医学以外の領域との連携も魅力になる。
- ・ 疾病に加え、予防、健康などに関し、山間部などの地域特性を活かした研究拠点は優位性がある。
- ・ 高いレベルの研究ができ、教員のサポートも充実させれば、既存の医療分野の壁を越える新しい形の大学院ができる。

## 2 優れた臨床研究医の育成

＜高度な研究能力と診断能力を兼ね備え、臨床の現場で活躍する医療人材

（フィジシャン・サイエンティスト）の育成＞

- ・ 医学的な知識や研究の経験は、医師の実力を伸ばすのに必要
- ・ 医科大学院ができれば質の高い医師が増える。
- ・ 病気を治すための研究に意欲を持つ学生は多い。臨床しながら研究できるのは魅力
- ・ 優秀な教育者、教育がしっかりされた医師を増やすことは大賛成
- ・ 最近の学生は専門医資格を取得したいが、学位の意味には疑問を持つ人が多い。専門医資格の取得と博士の学位の取得は両立できる。大学院で学位だけでなく専門医資格も取得できれば魅力となる。
- ・ 学生のニーズに合致した研究領域を設定し、在学中だけでなく、学位取得後も臨床しながら研究を続けることができれば静岡に残る可能性がある。

## 3 研究拠点の形成

＜既存の枠を越え、地域の特性を活かした最先端の研究拠点の形成＞

- ・ 疾病に加え、予防、健康などに関し、山間部などの地域特性を活かした研究拠点は優位性がある。
- ・ 他の研究機関や産業界と連携した先進的な臨床研究体制が構築できれば魅力的
- ・ 臨床しながらヒトのサンプルで研究ができるのは魅力になる。研究をサポートする体制の構築が必要
- ・ 高いレベルの研究ができ、教員のサポートも充実させれば、既存の医療分野の壁を越える新しい形の大学院ができる。

## 4 地域医療への貢献

＜研究成果の還元、医療人材の育成、大学院の資源活用による地域医療への貢献＞

- ・ 医師の質を高めるための大学院をつくるという考え方が必要
- ・ 産科や救急科の医師の少なさは、安心、安全と言えるのか疑問
- ・ 診療科別医師数が全国比80%未満の科では様々な支障が生じている。静岡県では内科に70%台が多く、診療科の細分化が進んでいるため、一つの大学で全分野をカバーすることは困難
- ・ 特に神経内科、アレルギー、リウマチ等の医師が少ないことは重要な問題
- ・ 内科系の不足分野に浜松医科大学と協力して医師を補充できる構想が必要
- ・ 静岡県で弱点とされる診療領域の優秀な医師を県立総合病院に集め、コアをつくる。それが魅力になる。
- ・ 医学部には病院への医師派遣機能があるが、静岡県には医師派遣を担うセンターがないのではないか。
- ・ 医学修学研修資金被貸与者の定着が課題。専門医研修の基幹病院を東部、中部で増やして指導医を充実させることが重要
- ・ 静岡県で専門医資格を取得でき、人材が東部を中心に広がるようなスキームが必要
- ・ 若い人は外に出ていろんな経験をしたい。県外に出て戻ってこれる、戻ってきてもいい仕組みづくりが重要
- ・ 「静岡県に定着したい」「専門医資格を取得したい」という医師が魅力を感じる大学院であることが必要



## 5 国際社会への貢献

### <海外の研究機関と連携した世界水準の研究推進による国際社会への貢献>

- ・ 中国浙江省各病院や豪州ウェストメッド小児病院などの静岡県立病院機構が連携している医療機関をはじめ、海外拠点との研究データの共有や研究者の往来などの連携を進め、世界水準の研究に取り組むことにより、国際社会に貢献する。

## (参考) 各医科大学院の理念・目標等

京都大学大学院 医学研究科	慶応大学 医学部・医学研究科	東北大学大学院 医学系研究科	浜松医科大学 医学系研究科	静岡社会健康医学 大学院大学
<p>○理念と目標</p> <p>京都大学大学院医学研究科は、<u>医学を、生命科学と理工学を基盤とし、個および集団としての人の健康と疾病を取り扱う統合的な学問と位置づけ</u>、生命現象の根本原理、病気の成因、病態の機構を解明し、その成果を先進的医療と疾病予防に発展させる<u>国際的研究拠点</u>を形成する。</p> <p>これにより、専門領域での深い学識に加え基礎生物学から臨床医学・社会医学までを見通す広い視野を備えた医学研究者の養成を行う。</p>	<p>○教育理念</p> <p>福沢諭吉・北里柴三郎の建学の精神に則り、常に広い視野で将来を見つめ、時代に先駆けて事を行う姿勢をもち、独創性と人間性を重んじ、<u>基礎医学と臨床医学の緊密な連携の下に学問と実践を結びつけた医学教育に基づく人材育成</u>をめざす。</p> <p>○教育目標</p> <p>独立自尊の気風を養い、豊かな人間性と深い知性を有し、確固たる倫理観に基づく判断力を持ち、生涯にわたって研鑽を続け、医学と医療をとおして人類の福祉に貢献する人材を育成する。</p> <p>○学部の基本思想</p> <p>・基礎と臨床一体の医学・医療を目指す</p> <p>1917年、慶應義塾大学医学部は世界的な細菌学者として知られる北里柴三郎博士を初代学部長として発足しました。博士は若い頃から民衆のための医学を志し、かつて受けた福澤諭吉の恩顧に報いるため医学部創設に尽力しました。以来長い歴史を刻んできた医学部は、「<u>基礎臨床一体型医学・医療の実現</u>」を理想に掲げ、「<u>フィジシャン・サイエンティスト</u>」の育成に取り組んでいます。それは、<u>研究能力を備えた医師</u>であり、同時に豊かな人間性と深い知性を有し、確固たる倫理観に基づく総合的判断力を持ち、生涯にわたって研鑽を続け、医学・医療を通して人類の福祉に貢献する人材の育成です。それはまさに福澤諭吉の提唱する“<u>実学</u>”の実現に他なりません。</p>	<p>○理念</p> <p>医学及び保健学の<u>先進的、学際的及び創造的な研究を推進</u>し、国際的に通用する優れた研究者並びに高度な医学的知識及び技術並びに豊かな人間性を備えた医療及び保健の指導者及び実践者を育成し、もって<u>日本及び世界の人の健康及び福祉の増進に寄与</u>する。</p> <p>○教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 <u>学問に対する強い探究心</u>を持ち、常に目的意識を持って医学及び保健学の領域問題の解決に挑戦して問題解決を成し遂げることができるのみならず、問題を発見することができる人材を育成する。</li> <li>2 最先端の専門的知識を備え、<u>世界水準の研究を理解</u>するとともに、新たなる発想に基づき、未知・未踏の研究課題に取り組む創造力と行動力のある人材を育成する。</li> <li>3 外国人や社会人に対する門戸を開放し、国内外で幅広く活躍できる人材を育成する。</li> <li>4 国際的視野と幅広い教養と豊かな感性に支えられた倫理性を持ち、かつ、高度な専門的知識の実践により、<u>健全なる地域社会と国際社会の形成に貢献</u>する人材を育成する。</li> </ol>	<p>○教育目的</p> <p>大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）は、<u>国際的にリーダーシップを発揮</u>できる<u>基礎医学研究者と臨床研究医を養成</u>することを目的としています。即ち、光先端医学を中心に幅広い専門分野の授業科目を履修することを基礎に、基礎研究者を目指す学生には高度の専門的知識と技術を身につけ、独創的な先端研究を遂行できる能力を養成します。また、臨床研究医を目指す学生には、<u>臨床研究を更に推進</u>することができるような<u>研究マインド</u>を持ち、<u>臨床の現場で広く求められる応用力を養成</u>します。</p> <p>○教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究者としての倫理と誠実な人間性を養う。</li> <li>2 国際的な視野を持ち、豊かな知性と教養を身につける。</li> <li>3 問題発見能力を身につける。</li> <li>4 医学・医療に関する高度の専門的知識と技術に基づく問題解決能力を身につける。</li> <li>5 学術論文の作成能力を身につける。</li> <li>6 <u>生涯にわたり自立して学問を探究する姿勢を養う</u>。</li> </ol>	<p>○基本理念</p> <p>健康と医療、環境を統合する俯瞰的な視点を機軸とし、健康寿命の延伸に資する教育研究を通じ、<u>国際社会に貢献する「知と人材の拠点」</u>を目指す。</p> <p>○基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 最先端の研究 臨床・予防医学の高度化、健康増進・疾病予防対策の最適化に資する最先端の疫学研究、ゲノム医学研究、医療ビッグデータ解析に取り組む。</li> <li>2 高度専門人材の育成 社会健康医学の学識を社会に還元し、医療・保健・福祉の現場でその向上に貢献できるプロフェッショナルな人材を育成する。</li> <li>3 成果の社会還元 研究成果の社会実装を積極的に進め、幅広い視点から<u>人類の健康増進や疾病予防に貢献</u>する。</li> </ol>
東京大学大学院 医学系研究科				
<p>○教育・研究目的</p> <p>本研究科は、生命現象のしくみの解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、医学系領域の各分野において<u>卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成</u>することを目的とする。</p>				